

平成20年度

fisc 財団法人 ふくい産業支援センター  
Fukui Industrial Support Center

# 活用事例集





# はじめに

本県の経済は、製造業の輸出や受注の急激な減少が続いている上、所得の低下や雇用不安の高まりから個人消費も落ち込んでおり、建設業、小売業、サービス業と幅広い産業に景気後退の波が押し寄せています。

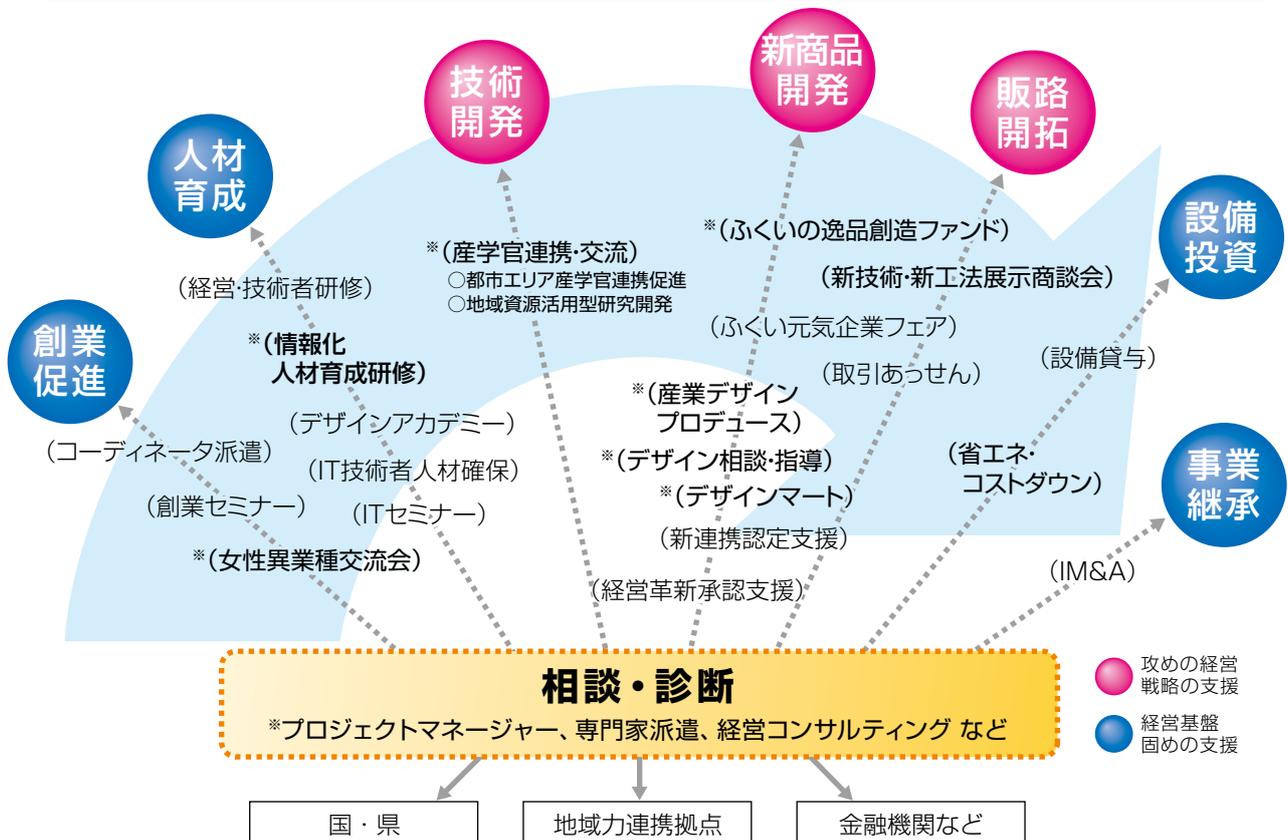
こうした中、当産業支援センターでは、県内の中小企業の方々が抱える様々な経営課題にお応えする総合相談窓口を開設し、中小企業診断士ほか各分野の専門家が産業支援センターの職員と連携して県内の中小企業の方々と一緒に経営課題の解決に取り組んでいます。

また、不況にも負けない経営基盤づくりや、景気低迷の中で経営革新や新商品開発、販路開拓などにチャレンジする意欲的な県内企業の取り組みを積極的に後押ししています。

ここでは当産業支援センターがこれまでに支援した企業の中から平成20年度に成果のあった19の事例を取り上げ掲載するとともに、その事業の概要について簡単に紹介いたします。

 財団法人 ふくい産業支援センター

## ■ 主な支援事業の全体像



※ 今回、事例として掲載している支援事業

# 目次 CONTENTS

	活用事業名	
事例 1	<b>株式会社ジャロック</b> スウェーピングマシンの販路開拓	経営相談サポート事業（プロジェクトマネージャー） 専門家派遣事業 03
事例 2	<b>中村運輸株式会社</b> 省エネ運転で経済性と安全性の向上	経営相談サポート事業（プロジェクトマネージャー） 04
事例 3	<b>北陸化工株式会社</b> 地道な改善の積み重ねによる 省エネ活動の推進	経営相談サポート事業（プロジェクトマネージャー） 専門家派遣事業 05
事例 4	<b>株式会社北陸濾化</b> 金属バリ取り剤の販路開拓と技術支援	経営相談サポート事業（プロジェクトマネージャー） 06
事例 5	<b>カメハメ八大農場『農家カフェ』</b> 女性企業家との交流による女性の創業支援	女性異業種交流会事業 07
事例 6	<b>ケイター株式会社</b> ビジョン実現のためのプロジェクトを きめ細かく支援	経営コンサルティング事業 ふくいの逸品創造ファンド事業 08
事例 7	<b>有限会社くらや</b> 越前指物技術を活用した防災建具の 商品開発と販路開拓	ふくいの逸品創造ファンド事業 11
事例 8	<b>株式会社アジチファーム</b> 県産コシヒカリを使用した米パン生地 の商品開発と販路開拓	ふくいの逸品創造ファンド事業 12
事例 9	<b>株式会社タナカ</b> 県内に自生している椿の種を活用した 椿油の開発と販路開拓	ふくいの逸品創造ファンド事業 専門家派遣事業 13
事例 10	<b>マルイチセーリング株式会社</b> 越前和紙・漆器を活用した家具の 新商品開発と販路開拓	ふくいの逸品創造ファンド事業 14

	活用事業名	
事例 11	<b>ラック株式会社</b> 全て Fukui Made の オンリーワン衣料品の開発と販路開拓	ふくいの逸品創造ファンド事業 15
事例 12	<b>越前漆器株式会社</b> 越前漆器の伝統技術を活用した箸の 商品開発と販路開拓	ふくいの逸品創造ファンド事業 専門家派遣事業 デザインマート事業 16
事例 13	<b>第一織物株式会社</b> スポーツ用機能織物を活用した タウンコートの商品開発	ふくいの逸品創造ファンド事業 17
事例 14	<b>水野商品館</b> (輸入アンティーク家具販売ショップ「ハンドル」) 輸入アンティーク家具のネット販売支援	情報化人材育成事業 19
事例 15	<b>倉茂電工株式会社</b> 銅めっきアラミド繊維を用いた 軽量・高抗張力ケーブルの開発	都市エリア産学官連携促進事業 21
事例 16	<b>株式会社田中化学研究所</b> 大容量・高信頼性リチウム電池用材料開発	都市エリア産学官連携促進事業 22
事例 17	<b>株式会社エル・ローズ</b> 越前がにを用いた高品質 N-アセチルグルコサミン精製技術の開発	地域資源活用型研究開発事業 23
事例 18	<b>有限会社ユタカ建商</b> 越前指物動物組木パズルのデザイン開発支援	デザイン指導相談事業 ふくいの逸品創造ファンド事業 25
事例 19	<b>大日メタックス株式会社</b> 商品コンセプト等の企画から知財権登録支援 まで商品開発に関する幅広い支援	産業デザインプロデュース事業 経営コンサルティング事業 26

## 経営相談サポート事業（プロジェクトマネージャー）

豊富な経験や幅広い人的ネットワークを有する企業OBや専門家をプロジェクトマネージャーとして委嘱し、職員とともに産業支援センターの様々な事業を効果的に組み合わせて支援を行います。

### プロジェクトマネージャー紹介

<b>芝田 清</b>	元 東レ（株）滋賀事業場 繊維製造部 次長 兼 トレビーノ生産課長 元（東レ関連）中濃セテック社長
<b>小林 干城</b>	元（株）デンソー ボデー機器事業部 技術次長 // 製造部部長 元（株）デンソー豊星電子（韓国） 副社長

お問い合わせ 新事業支援部 総合相談・創業支援グループ TEL：0776-67-7400

## 専門家派遣事業

創業を目指す方や中小企業者等が抱えている技術開発、生産効率化、情報化対応等の様々な経営課題を解決するため、専門的な知識や経験を有する専門家を相談者の事業所に派遣し、適切な指導・助言を行います。

### 企業の負担金

1回（4時間）あたり40,000円以内で1/2（20,000円以内）が自己負担となります。

### 平成20年度 実績

専門家登録人数 113人 派遣先企業数 44社 派遣回数 257回  
(うちデザイナー派遣 10社 50回)

お問い合わせ 新事業支援部 総合相談・創業支援グループ TEL：0776-67-7400

## 女性異業種交流会事業

日常生活の中でのアイデアやノウハウを活かした、女性の視点による新たなビジネスを促すため、各分野で活躍する県内外の女性企業家を招いてパネルディスカッションやグループディスカッション等を開催し、女性企業家同士の交流や意識啓発をはかります。

### 平成20年度 実績

ふくい女性企業家フォーラム開催 3回 参加者数 延べ 102人

お問い合わせ 新事業支援部 経営革新・コンサルグループ TEL：0776-67-7424

## 経営コンサルティング事業

企業の現状分析・課題の抽出・改善策の提案を行う企業診断を実施するとともに、継続的なフォローを希望する企業については、課題克服に向けたコンサルティングを行います。

### 企業の負担金

診断内容により異なりますので、ご相談ください。

### 平成20年度 実績

実施件数 15件（診断 7件、継続 8件）

お問い合わせ 新事業支援部 経営革新・コンサルグループ TEL：0776-67-7424

## 経営相談サポート事業(プロジェクトマネージャー)事例

**事例 1** **株式会社ジャロック**  
スウェーピングマシンの販路開拓

**事例 2** **中村運輸株式会社**  
省エネ運転で経済性と安全性の向上

**事例 3** **北陸化工株式会社**  
地道な改善の積み重ねによる省エネ活動の推進

**事例 4** **株式会社北陸濾化**  
金属バリ取り剤の販路開拓と技術支援

## 専門家派遣事業事例

**事例 1** **株式会社ジャロック**  
スウェーピングマシンの販路開拓

**事例 3** **北陸化工株式会社**  
地道な改善の積み重ねによる省エネ活動の推進

**事例 9** **株式会社タナカ**  
県内に自生している椿の種を活用した椿油の開発と販路開拓

## 女性異業種交流会事業事例

**事例 5** **カメハメ八大農場『農家カフェ』**  
女性企業家との交流による女性の創業支援

## 経営コンサルティング事業事例

**事例 6** **ケイテー株式会社**  
ビジョン実現のためのプロジェクトをきめ細かく支援

**事例 19** **大日メタックス株式会社**  
商品コンセプト等の企画から知財権登録支援まで商品開発に関する幅広い支援

## 株式会社 ジャロック

代表者名: 武澤 清則

所在地: 福井市

業種: 金属加工機械製造業

事業内容: CNC スウェーピングマシン、  
スウェーピング用金型塑性加工機  
製造・販売、スウェーピング・ブ  
レス・自動車・眼鏡部品加工等

# スウェーピングマシンの 販路開拓

## 経営課題 (事業を活用した経緯等)

自社商品スウェーピングマシンの拡販および企業体質向上のため、現場改善や品質・納期・原価低減の活動や、改善し続ける管理システムの構築を必要としていた。

## 支援内容

産業支援センターのプロジェクトマネージャー(以下PM)は、自動車産業関連企業への営業に同行したほか、『ふくい新技術・新工法展示商談会』の出展準備の助言やフォローアップなどにより、販路開拓の支援を行なった。また、生産管理の専門家を派遣し、5S<sup>(※)</sup>の定着を通じて意識改善を図り、「見える化」や自動化の推進による生産の効率化向上のための支援をした。



スウェーピング(絞り)加工を施した線材やパイプ

## 支援成果・現状

PMのサポートにより、展示商談会では新たな分野に対して効果的な技術アピールができた。さらに、その後の営業の結果、具体的な商談に発展したケースもあった。

一方、5S活動をはじめ、見える化による現場改善を実施することで、これまでの定性的な効果の把握から定量的に効果が測定できるようになった。その上、従業員の自主的な改善活動も活発化し、平成20年の改善実施件数は前年に比べて15.3%アップした。

※5S:生産管理の基本となる整理・整頓・清掃・清潔・躰のこと。

## 代表者の方からの一言



代表取締役 武澤 清則 氏

小林PM、(株)デンソー社員OBによる専門家派遣など、産業支援センターにはお世話になっており、生産工程・社員意識など企業体質の改善取り組みは非常に勉強になりました。

トヨタ自動車(株)や(株)デンソーなどをはじめとする展示商談会への参加を通じて、企業のPRや商品プレゼンの方

法など得られたものはたくさんあります。

今後も様々な指導やアドバイスなどの支援をお願いします。

## 中村運輸株式会社

代表者名：中村 利夫

所在地：敦賀市

業 種：運輸業

事業内容：一般貨物自動車運送事業、  
通運業、貨物運送取扱事業省エネ運転で経済性と  
安全性の向上

## 経営課題（事業を活用した経緯等）

一時の原油価格高騰に伴い、エコ運転の実施や燃料経費の削減を図る必要があった。

## 支援内容

プロジェクトマネージャー（以下、PM）が小集団活動<sup>(※)</sup>に参加し、燃料費削減、修理費、交通事故件数の削減、エコ運転の実施の各テーマについてアドバイスを行った。

## 支援成果・現状

PMの支援により様々な省コスト対策を進めた。エコ運転の実践に向けて、アイドリング厳禁、経済速度の厳守、日常点検の励行など7つのポイントについて、運転者

とスタッフが改善活動を実施した。対策後の燃料の削減効果は、標準運行車と改善活動運行車の比較で約280千円と比較的低額であり、目標10%に対して7%にとどまったが、一方で経済速度の運転や出発時間を早めることで精神的なゆとりが生まれたことで、自動車事故が大幅に減少した。改善活動前の1年間は16件の事故発生に対して、活動後の8ヶ月で1件の発生にとどまっている。

さらに日常点検の励行により、出先での車両トラブルが激減したほか、社員に共通の話題ができ職場内コミュニケーションが活発化した。

こうした当社の取り組みが評価され、(財)省エネルギーセンター主催の「平成20年度省エネルギー優秀事例近畿地方大会」の参加者に選ばれた（福井県から3社、全17社）。

※小集団活動：「QC活動」とも呼ばれる、現場グループによる職場改善活動のこと。



## 代表者の方からの一言



代表取締役 中村 利夫 氏

エコ運転などの社内改善を実践する中で、産業支援センターの支援を受けることになりましたが、産業支援センターから省エネルギー優秀事例大会の情報提供を受けて参加することになり、効果的なプレゼンテーションの仕方や内容確認などの指導もしていただいたことは勉強になりました。

そして、結果として燃料費が下がり、事故が減少するなど目に見える成果が出たことに驚きました。残念ながら全国大会には進めませんでしたが、大会への参加で企業PRも行うこともでき、産業支援センターには様々な面で今後も協力を仰いでいきたいと考えています。

## 北陸化工株式会社

代表者名：前田 一吉

所在地：鯖江市

業 種：染色整理業

事業内容：合成繊維（ナイロン・ポリエステル）を中心とした染色・撥水・コーティング加工

# 地道な改善の積み重ねによる省エネ活動の推進

## 経営課題（事業を活用した経緯等）

当社では、小ロット、短納期商品が増加し、燃料の製造原価に占める比率が、34%（平成20年度）を占めていた。そこで、燃料原単位<sup>(※)</sup>の低減や生産効率向上により、黒字への転換を図るとともに、生産管理・品質管理の向上や企業体質の強化、技術開発、商品化、自販による販路拡大を目指していた。

## 支援内容

染色加工の専門家を派遣し、工場内の生産管理・品質管理の改善項目の確認と具体的な改善のための指摘を行った。これを受けて、プロジェクトマネージャー（以下、PM）がその指摘項目に対する改善活動の実施を支援したほか、従業員の意識改革と経営指導を行った。



## 支援成果・現状

PM等の支援により、①生産管理・品質管理の改善による歩留まりと利益率の向上②生産性向上による製造原価のダウン③エネルギー原単位低減による製造原価のダウン、の具体的な効果があった。

改善活動により実質削減した金額は21,660千円、今回の対策による積上げ分の削減金額は、11,628千円に達した。こうした当社の取組みが評価され、(財)省エネルギーセンター主催の「平成20年度省エネルギー優秀事例全国大会」において、149社の応募案件中、当社が「近畿経済産業局長賞」を受賞した。

※原単位：一定量を生産するために必要な原材料等の標準的な分量



## 代表者の方からの一言



代表取締役 前田 一吉 氏

ももとは産業支援センターに経営相談をしたことから芝田PMと繋がりが始まり、燃料使用量削減のため芝田PMの紹介で専門家派遣事業を活用することとなりました。外部からの刺激も加わり、芝田PMをはじめとする支援策により、生産管理の改善、燃料コスト削減が行われ、また省エネルギー

優秀事例全国大会での受賞など、大変お世話になりました。今後も、産業支援センターの協力をお願いしたいと思います。

## 株式会社 北陸濾化

代表者名：森家 英幸

所在地：鯖江市

業種：化学製品製造業

事業内容：公害防止機器の設計・製作および  
販売、化学工業薬品の製造・販売金属バリ取り剤の  
販路開拓と技術支援

## 経営課題（事業を活用した経緯等）

主に金属のバリ取り剤『ホロクリン』の販路開拓や異業種への新たな応用のための技術開発に取り組んでいる。

## 支援内容

プロジェクトマネージャー（以下、PM）が建設機械（コマツ）、自動車業界（スズキ㈱）、電気機器（シャープ㈱）の商談会（ふくい新技術展示・商談会）への出展や、ホロクリンの県内外企業への販路開拓支援を行った。また、技術開発のための補助金制度の紹介と展開方法の相談・助言も行った。

## 支援成果・現状

産業支援センターと県が主催する各業界向けの展示商談会に参加し、参加後も積極的なアプローチを継続した結果、県内A社に続き、県内B社、県外C社への販売も実績ができた。

これまでにも自動車業界への展示会に参加したが、直接商談には発展しなかった。しかし、他の業界への営業に際し、自動車業界展示会への出展が大きな評価を得ており、営業活動の支えになっている。

今までに行ってきた不特定多数の企業への商品PRのあり方を見直し、特定の業種で用途や活用先を明確に伝える、的を絞込んだ営業活動の利点を知ることができた。



バリ取り剤で洗浄処理した金属部品の一例

## 代表者の方からの一言



代表取締役 森家 英幸 氏

産業支援センターの皆様と二人のPMには、ふくい新技術展示・商談会、ふくい元気企業フェアへの参加や、滋賀県産業プラザおよび奈良県支援センターを通じての取引先の紹介、契約など経営に関する相談やアドバイス等、様々な面で支援をしてもらっています。

特に芝田PMからは、他県企業およ

び団体との交流を通じて当社製品を販売する新規顧客開拓にも力を尽くしてもらい、非常に感謝しています。

これからも引き続き、販売地域に密着した特徴あるPR活動の支援をお願いしたいです。

## カメハメ八大農場 『農家カフェ』

代表者名：藤井 和代

所在地：あわら市

業種：飲食業

事業内容：自家栽培の材料を使った生ジュース、野菜スープの移動販売

# 女性企業家との交流 による女性の創業支援

## 経営課題（事業を活用した経緯等）

自らが育て、収穫した農産物を使ったジュースやスープの移動販売を計画。しかし、創業にあたり、移動販売用の営業車を購入するための資金調達手段や移動販売車のラッピング（外装）のデザイン、また効果的なチラシのデザイン等で悩みを抱えていた。

## 支援内容

産業支援センターが開催した『第2回女性のための夢実現交流会』への参加をうながし、「顧客のつかみ方」をテーマとした先輩女性企業家等の交流の場を提供した。

## 支援成果・現状

先輩の女性経営者や同じ悩みを抱える方々と意見交換をすることによって、創業に向けた課題の整理や課題解決に役立つ情報の収集、人的ネットワークの構築などにつながった。その後、産業支援センターの相談窓口等も利用して、平成21年4月に創業した。

今後、福井県の農産加工ビジネス支援事業の助成金交付を受けて移動販売車を購入し、商品イメージに合ったラッピングを施して、本格的な営業を開始する予定である。



## 代表者の方からの一言



代表 藤井 和代 さん

起業は大変なチャレンジで不安も大きいですが、交流会を通じて、いろいろな分野の方々が、女性の視点でユニークなビジネスにチャレンジしていることに刺激を受けました。

また自分の課題を相談できる人もできました。産業支援センター職員

の方々にもきめ細かに対応していただいています。

## ケイター株式会社

代表者名：荒井 由泰

所在地：勝山市

業 種：合繊織物製造業

事業内容：スポーツ、婦人衣料、ユニフォーム、生活資材用織編物製造

# ビジョン実現のための プロジェクトを きめ細かく支援

## 経営課題（事業を活用した経緯等）

創業 100 周年を迎えるにあたり、中期経営ビジョンを策定。その実現に向けて、販売部門、生産部門、経営企画部門それぞれにおいて、日常業務にプラスする形で、全社的に、新たな価値創造のためのアクションを進めている。

## 支援内容

産業支援センターの職員が定期的に当社を訪問し、ビジョン実現のための各部門のアクションプランの作成やその実践を、社員の方と一緒に支援。プロジェクトチームの運営をサポートしながら、新規事業の立案についてマーケティング面のアドバイス、新人事制度の立案等を行なった。

また、新規事業の立上げのために「ふくいの逸品創造ファンド」の活用を提案した。

## 支援成果・現状

ビジョン実現に向けてのプロジェクトを 3 年余り継続してきたことで、生産面では合理化によるコストダウンや I S O 認証の獲得などの成果があり、販売面では他社との連携による新たなユニフォーム生地が量産化に至るなど、厳しい経済環境の中で徐々に数字につながる成果が上がりつつある。

また、営業開発部門のマーケティング面でのノウハウが向上し、ビジョン実現の大きな幹となる新規事業の種が芽生えつつある段階にきている。



## 代表者の方からの一言



代表取締役 荒井 由泰 氏

経営環境が激変する中、当社にとって産業支援センターは、経営全般のアドバイザー、相談相手として頼りになる存在です。

今後とも、弊社の社員の一人ぐらの気持ちを持ってお付き合いをお願いします。

## ふくいの逸品創造ファンド事業

地域資源を活用した創意工夫ある取り組みを幅広く支援するため、ふくいの逸品創造ファンドの運用益で、県外市場での顧客獲得を目指す県内企業の商品開発や販路開拓への取り組みと、繊維関係企業同士や眼鏡産地の企業が小売店等と連携して行う商品開発や販売力強化のモデル的な取り組みに対して、助成します。

### ① “ふくいの強み活かす” チャレンジ企業支援

地域資源を新たな発想で活用し、“これぞ福井”と納得できる逸品の事業化を支援するため、県外市場での顧客獲得を目指す新商品・サービスの開発や販路開拓の取り組みに対して助成します。

助成率 1/2                      助成限度額 500万円/件（販路開拓のみの限度額 200万円）

### ② 企業連携による繊維産地競争力強化モデル創出

産地内の他業態の企業が連携して商品開発や販売力強化を図るモデル的な取り組みや、同業態の企業が連携して共同販売を行うモデル的な取り組みに対して助成します。

助成率 2/3                      助成限度額 600万円/件

### ③ 小売店との連携による福井ブランドめがね販売モデル創出

産地企業が全国の眼鏡小売店等と連携し、福井ブランドを前面に打ち出した製品の企画・生産からPR・販売までを共同で行うモデル的な取り組みに対して助成します。

助成率 2/3                      助成限度額 600万円/件

## 平成20年度 実績

助成対象事業数 22 件

平成 21 年度から新たな支援メニューが追加になりました。

### 農商工連携による新事業創出支援

福井の農林水産物の魅力や特性を引き出した商品の企画・生産からPR・販売までを農林水産業者と中小企業者とが連携して行うモデル的な取り組みに対して助成します。

助成率 2/3                      助成限度額 600万円/件

お問い合わせ 新事業支援部 販路開拓グループ TEL : 0776-67-7406

## ふくいの逸品創造ファンド事業事例

### 事例 6 ケイテー株式会社

ビジョン実現のためのプロジェクトをきめ細かく支援

### 事例 7 有限会社くらや

越前指物技術を活用した防災建具の商品開発と販路開拓

### 事例 8 株式会社アジチファーム

県産コシヒカリを使用した米パン生地の商品開発と販路開拓

### 事例 9 株式会社タナカ

県内に自生している椿の種を活用した椿油の開発と販路開拓

### 事例 10 マルイチセーリング株式会社

越前和紙・漆器を活用した家具の新商品開発と販路開拓

### 事例 11 ラック株式会社

全て Fukui Made のオンリーワン衣料品の開発と販路開拓

### 事例 12 越前漆器株式会社

越前漆器の伝統技術を活用した箸の商品開発と販路開拓

### 事例 13 第一織物株式会社

スポーツ用機能織物を活用したタウンコートの商品開発

## 有限会社 くらや

代表者名：倉谷 安治

所在地：越前市

業種：家具・建具製造・販売業

事業内容：伝統建具・防災建具・福祉対応  
建具・家具等の製造販売及び防  
災・海外事業他

# 越前指物技術を活用した 防災建具の 商品開発と販路開拓

## 経営課題（事業を活用した経緯等）

当社は、創業 150 年で主に伝統建具・家具等の製造販売を行ってきた。しかし、その内容は「慣例的伝統工芸品」製造の繰り返しで、機能面での革新的新商品の開発ができにくい環境なのが現状である。更に近年は既製品の驚異的増加や間取りの洋風化により、国内全体の建具生産量が急減し、業界の廃業を含めた衰退は急加速度的に進んでいる。

そこで、当社の取締役専務が 30 年間、消防団活動や多くのボランティアに参加してきた経験を踏まえ、建具業界の発展とこの“人命救助”を関連付けはできないだろうかと考え、“防災建具”という付加価値の高い独自製品の開発と販路開拓に取り組むことにした。

## 支援内容

商品の特徵や販売計画などいわゆる“社長の想い”の整理を行い、具体性のある事業計画づくりを支援した。「ふくいの逸品創造ファンド事業」採択後には展示会「ふくい元気企業フェア 2008」への出展等を通して PR を支援した。

## 担当者の方からの一言



取締役専務 倉谷 道治 氏

今回のファンドでの取り組みが、曖昧な自己流の開発から管理する開発に移行するきっかけとなりました。開発の難しさとそれを営業に結びつける為の痛みを伴いながらの事業転換、企業の弱点を克服しながらの前進は大変でしたが、この支援のおかげで製品の開発と自己の開発にとって大きな飛躍の

起爆剤になりました。

支援して頂いた多くの皆様に感謝すると共に、今後何とか売り上げに結び付けたいと痛感しています。ありがとうございました。

## 支援成果・現状

本事業を実施した結果、防災・救命・救助を重視した機能を付加した防災建具の商品化ができた。（商品動画：<http://www.bousai-tategu.com/>）

開発した商品を「東京国際消防防災展」などに出席したことで、東京消防庁のレスキュー隊員からも好評を得ると同時に、貴重なアドバイスを受けることができ、開発に大いに役立ったほか、大都市圏では地震や多発する火事、扉に閉じ込められる緊急事態の多発など隠れた需要もあることが明確になり、今後の開発にも弾みがついた。

また、マスコミにも多く取り上げられたことで、県外の自治体や消防本部からの問い合わせも増加している。

現時点ではまだ大きな売上には繋がっていないが、越前市役所で初めて防災建具が所内に設置されたほか、教育委員会や福祉関連から説明の要請もきている。

今後は、使用する人の要望に合わせて機能性を高めると同時に、デザイン性や利便性・低価格を追求し、製品価値を高め売上増加に繋げていく予定である。



災害で開閉ができない状態でも脱出できるように工夫を凝らした防災建具

## 株式会社 アジチファーム

代表者名：義元 孝司

所在地：福井市

業種：農業、農産物加工業

事業内容：米、大豆、ソバ等の生産、米パン、  
米麺、菓子、ケーキ等の製造販売県産コシヒカリを  
使用した米パン生地  
の商品開発と販路開拓

## 経営課題（事業を活用した経緯等）

農産物は、加工を施し付加価値を高めることで収益を高めることが可能となる商品である。当社においても、従来から自家生産の米を活用し、米粉パンの開発に取り組んできたが、米粉は小麦粉に比べ価格が高く、パンとしては価格競争力に劣る欠点があった。

しかし、近年は天候異変や耕作面積の減少から小麦の供給量が減少しており、米粉と小麦粉との価格差が小さくなったことから、本格的に米パン生地の商品開発と販路開拓に取り組むために「ふくいの逸品創造ファンド事業」に応募した。

## 支援内容

「ふくいの逸品創造ファンド事業」への申請に向けた事業計画の磨きなおしを支援したほか、事業採択後には、産業支援センターが主催する展示会「ふくい元気企



業フェア 2008」において来場者の声を集める場を提供するなど、商品開発の支援を行った。

## 支援成果・現状

本事業において、市場調査を実施した結果、食の安全・安心をキーワードとして、米粉パンの需要が多いことが明確になり、商品開発の方向性に自信がついた。

また、米パン生地の開発については、焼き上がりが綺麗に仕上がるように試行錯誤を繰り返し、ほぼ満足のいく生地に仕上げることができた。

これまでに、県内と石川県の小売店3店舗と、東京のチェーン店（15店舗）との取引契約が成立しており、売上実績は月80万円～100万円となっている。

今後は、より良い生地の改善に取り組むと同時に、さらなる販路開拓に取り組む予定である。

## 代表者の方からの一言



代表取締役 義元 孝司 氏

農産物を加工販売する農業者で当事業を利用することは、本県であまり例がないとのことでしたが、産業支援センターの協力をいただきながらある程度の事業実績が出てきたことに感謝し

ています。

これを機会に多くの農業者がこの事業に取り組み、農業を産業化させて欲しいものです。

## 株式会社 タナカ

代表者名：田中 康隆

所在地：高浜町

業種：石油製品小売業

事業内容：石油製品全般の販売、生活製品の販売および椿油の製造販売

# 県内に自生している 椿の種を活用した 椿油の開発と販路開拓

## 経営課題（事業を活用した経緯等）

当社は、石油製品の小売業を営んでいるが、石油価格の高騰、価格競争の激化、公共事業の縮小などにより大幅な売上減少が続いている。

そこで、石油販売に代わる新規事業を検討する中で、当社の創業時に椿油を製造していたことが分かり、近年関心が高い「健康」のキーワードにもマッチしていることから、若狭地域の椿を活用した椿油の商品開発から販路開拓に取り組むことにした。

## 支援内容

職員がターゲットの設定や販売計画等に助言を繰り返しながら、「ふくい逸品創造ファンド事業」への申請に向けた事業計画づくりを支援した。また、新聞、テレビ等のマスコミへの情報提供や専門家（デザイナー）を派遣し、パッケージやラベルのデザイン開発支援を行った。

## 支援成果・現状

本事業を実施した結果、植物性食用油脂の椿油「わかさ椿」が商品化でき、5ml入り500円、30ml入り4,800円で販売しており、これまでの売上総額は約70万円となっている。

最近では、若狭の観光土産品としても人気が出始めており、若狭地域のみならず舞鶴地域でも販路が開拓されつつある。

また、福井新聞、日刊県民福井をはじめ、県外の新聞にも記事が取り上げられたほか、テレビでも複数回紹介されるなど、椿油の話題性も高まっている。

なお、本事業では、商品の原料となる椿の種子を如何に集めるかがポイントとなるが、これについては地域の住民からの種子の買取制度を確立し、コミュニティビジネスとして福井県コミュニティビジネス協議会から認証を受けた。

今後は、椿油を化粧品として販売することも予定しており、現在着実に準備を進めている。



## 代表者の方からの一言



代表取締役 田中 康隆 氏

単に助成金を受けるだけでなく、産業支援センターからの情報発信によりマスコミ等への話題が拡大したことで、人・物・情報が集まり交流が大きくなったことが思いがけないメリットでした。

申請書作成等を通じて、自社を見つめ直すことによる自己研鑽と事業実施

による事業拡大を同時に得ることができこの制度を、多くの企業さんにもどんどん利用していただきたいと思います。

## マルイチセーリング株式会社

代表者名：小林 幸一

所在地：越前市

業 種：家具製造・販売業

事業内容：リビング用ソファの製造販売

## 越前和紙・漆器を活用した家具の新商品開発と販路開拓

## 経営課題（事業を活用した経緯等）

当社では、主にソファを製造しているが、近年グローバル競争が激しくなり、特に中国製品の台頭による単価の低下、出荷量の減少が著しくなっている。

そこで、このような状況を打開するため、付加価値の高い独自商品が必要であることから、家具と越前和紙や漆器などの越前地域の資源をコーディネートした付加価値の高い商品群を開発し、販路開拓に取り組むことにした。

## 支援内容

「ふくい逸品創造ファンド事業」により、試作品の開発と展示会出展など販路開拓を支援した。申請時に事業計画の作成に助言を行ったほか、事業実施途中でも計画見直しの相談に対応するなど、企業にとって最良の成果が得られるよう支援した。



## 企業の方からの一言

新しいモノの開発をするにあたり支援頂けたことに感謝いたします。その支援のお陰で今まででは考えられない世界市場へ向けての情報の発信および市場開拓の一步を歩むことができました。これからももっと継続して支援いただける内容のご検討の方もよろしく申し上げます。



## 支援成果・現状

本事業を実施した結果、越前和紙を張り地に使用したソファや、漆器の技術を活用した家具などの商品化ができた。

開発した商品を世界で最も注目されるイタリアの展示会「ミラノ・サローネ」に出品したところ、建築家や販売店のバイヤーなど約 140 名もの来場者が当社のブースを訪れるなど好評を得ることができ、商品開発の方向性に自信が持てたほか、ターゲットにすべき市場の絞り込みにも確信を持つことができた。

今後は、展示会等で引き合いのあった相手方との商談を進めるほか、新たな商品開発にも取り組む予定にしている。

## ラック株式会社

代表者名：樂間 健二

所在地：永平寺町

業種：繊維製品製造・販売業

事業内容：ポリエステルオーガンジー、サテン、カーテン生地製造、ウェディングドレス等の企画・制作・販売

# 全て Fukui Made の オンリーワン衣料品の 開発と販路開拓

### 経営課題（事業を活用した経緯等）

当社は、従来オーガンジーやサテンなどの生地を中心に委託生産を実施してきたが、2年前から委託生産だけでなく、自社企画の生地の委託加工、販売にも乗り出した。その過程で、販売した生地の最終製品としてブライダルだけではなく個性的な衣料へのニーズがあることが分かった。

そこで、自社においてニーズに合ったファッション衣料をデザインも含め企画～生地生産～染色～縫製という一貫生産により生産し、世間に提案する事業に取り組むことにした。

### 支援内容

「ふくいの逸品創造ファンド事業」により試作品の開発や展示会出展経費の助成を行った。事業採択後には、展示会「ふくい元気企業フェア 2008」への出展支援等により、当社取り組みのPRを支援した。

### 支援成果・現状

本事業を実施した結果、外部のデザイナーや社内デザイナーのデザインを基に多くのサンプル衣料を作成することができ、「ふくい元気企業フェア 2008」をはじめ、ジャパנקリエーション、福井アートフェスタ、Gクリエイターなどの展示会に出展した結果、全体で800名程度の来場者があった。

特にジャパנקリエーションに出展したことで、テーマパークのコスチューム、ホテルのノベルティー、秋葉系ファッション問屋、舞台衣装メーカーなどから引き合いがあり、既に販売に繋がったものもあるなど、これまでに約300万円の売上実績となっている。

今後は、量産体制を確立すると同時に、引き合いのある企業との商談成立に向けて活動するほか、引き続き展示会に出展することで新たな顧客開拓に取り組む予定である。



### 代表者の方からの一言



代表取締役 樂間 健二氏

今回、助成事業を活用させていただいたことで、一般の衣料とは異なり、趣味の衣料・資材として、他の企業とは一味違った素材・デザイン・用途を提案する下地が出来たことを嬉しく思います。

サブカルチャー部門の需要は今後も継続すると思われます。国の機関でも

世界コスプレサミットを開催するなど、「カワイイ」と言うコンセプトで「漫画」「アニメ」と同様に海外に日本文化の紹介を打って出る方向に向かっていきます。当社もこうした動きにのっていきたいと思います。

## 越前漆器株式会社

代表者名：森下 直樹  
所在地：鯖江市  
業 種：漆器製造・卸売業  
事業内容：漆器の器及び小家具類の  
商品企画、卸売

# 越前漆器の伝統技術を活用した箸の商品開発と販路開拓

### 経営課題（事業を活用した経緯等）

当社は、これまで漆の「器」を中心に扱ってきたが、近年のライフスタイルの変化や安価な中国製品の影響により販売不振が続いており、売上はピーク時（平成2年～3年）の約4割にまで落ち込んでいる。

そこで、伝統工芸越前漆器に伝わる技術を活用し、日本人にとって必需品であるが、当産地では殆ど製造されていなかった「箸」を開発し、百貨店や箸専門店、インテリアショップ等に対する販路開拓に取り組むことにした。



### 支援内容

専門家（デザイナー）の派遣や求評会「デザインマート」でのバイヤーからの評価・助言により、生活者の視点からの魅力ある商品づくりを支援した。また、「ふくいの逸品創造ファンド事業」の活用をおして販路開拓のための展示会出展等を支援した。



### 支援成果・現状

本事業を通じて、デザイナーの指導を受けることでデザイン性の高い商品群を開発することができた。また、各種展示会に出展し、約15社の新規取引先が確保できた。

さらに、“大都市圏のこだわりを持った人”というターゲットに合わせて、有力百貨店でPR活動を行い、数多くの試行販売につなげることができた。これらにより、売上は事業開始から1年間で約900万円となっている。

今回の開発商品が消費者のニーズと合致していることが確信できたことで、今後はさらなる新商品の開発と販路開拓に取り組む予定である。

### 代表者の方からの一言



代表取締役 森下 直樹 氏

今回、この事業を利用させていただいたことにより、展示会出展などを中心とした多くの販路開拓計画を実施することができ、またデザイナーの協力を得て、魅力ある新商品を数多く開発できました。

同時に、狙いとした方向性において十分に需要が見込めることを確認でき

たことも大きな収穫で、今後は成果を上げるとともに、ブランドとしての確立を目指し、更なる活動を続けていくつもりです。

## 第一織物株式会社

代表者名：吉岡 隆治

所在地：坂井市

業 種：合繊織物製造業

事業内容：ポリエステル、ナイロン布帛織物の製造、レインコート、ジャンパー、バックの企画販売

# スポーツ用機能織物を活用したタウンコートの商品開発

## 経営課題（事業を活用した経緯等）

当社の超高密度多重織物は、アウトドア・スポーツ用素材として、多くのメーカーとの取引があり、シーズン前には多くのカラー見本を製造するが、採用された生地以外は在庫となってしまう懸念があった。

そこで、生地素材の特性とカラーバリエーションの豊富さという特徴を活かしながらアウトドア・スポーツ用素材と異なる付加価値の高い独自商品として、ファッション衣料の中でもカラーバリエーションが少ない領域で、撥水性・防風性・伸縮性の特徴を活かせるタウンコートの商品開発と販路開拓に取り組むことにした。

## 支援内容

「ふくいの逸品創造ファンド事業」により、試作品開発や首都圏での展示会出展に助成したほか、展示会「ふくい元気企業フェア 2008」に同社商品を出展、注目度も高く新聞、テレビ等のマスコミでも多く取り上げられるなど、商品のPRを支援した。

## 支援成果・現状

本事業を実施した結果、デザイン性や機能性、カラーバリエーションに優れたタウ

ンコートの商品化することができた。

開発した商品を展示会「I F F（インターナショナル・ファッション・フェア）」に出品したところ、当社のブースに3日間で約300名の来場者があり、一様に高評価を得ることができた。

また、展示会後には個別に実売に向けて商品改良等の意見を得る機会も持つことができ、出品した5アイテムのうち、2アイテムの量産が決まった。

今回の開発商品は、現在、バーニーズニューヨーク（首都圏3店舗）、銀座松屋百貨店、阪急百貨店インクス館で販売しており、順調に売上を伸ばしている。

また今春は、新型のスプリングコートも店頭展開されており、今後も引き続き、新デザインの開発と販路開拓に取り組み、販売強化に取り組む予定である。



## 代表者の方からの一言



代表取締役 吉岡 隆治 氏

I F F（インターナショナルファッションフェア）に出展するにあたり、当社商品の特長の1つであるカラーバリエーションの豊富さをアピールするためには、展示サンプルの数がかなり必要でした。

今回の助成金は、主にこのサンプル作成や副資材等の試作経費に充てましたが、コスト面で妥協することがなかつ

たので、納得いくサンプルを多数準備することが出来ました。商品そのものの紹介に加え素材メーカーとしての注目も集めることができ、大成功の展示会になったと思います。

## 情報化人材育成事業

実践的なIT活用やインターネット販売などの電子商取引に関する研修を福井県産業情報センター（坂井市丸岡町）および嶺南支所（小浜市小浜白鬚）で実施します。

### 平成20年度 実績

年間 45 講座 66 回 受講者数 745 人

研修名	講座数	実施回数	受講者数
OAソフト業務活用研修	15 講座	21 回	230 人
EC(eビジネス)研修	5 講座	10 回	121 人
Web制作研修	17 講座	27 回	304 人
企業内システム管理者向け研修	5 講座	5 回	64 人
IT技術者向け研修	3 講座	3 回	26 人
合計	45 講座	66 回	745 人

※ 平成21年度 情報化人材育成カリキュラムは下記のHPをご確認ください。

<http://www.fisc.jp/pckouza/>

お問い合わせ 地域産業支援部 情報化支援グループ TEL : 0776-67-7411

## 情報化人材育成事業事例

事例14

### 水野商品館

(輸入アンティーク家具販売ショップ「ハンドル」)

輸入アンティーク家具のネット販売支援

## 水野商品館

(輸入アンティーク家具販売ショップ「ハンドル」)

代表者名: 水野 慎太郎

所在地: 福井市

業種: 家具卸・小売業

事業内容: 住宅・キッチン、アンティーク家具、インテリア雑貨販売

# 輸入アンティーク家具の ネット販売支援

## 経営課題 (事業を活用した経緯等)

当社は県内外で4店舗のインテリアショップを運営。平成19年からネット上にアンティーク家具専門ショップを開店し売り上げ拡大を目指していたが、思ったよりも売り上げが伸びず対策をとる必要性があった。

## 支援内容

産業支援センターの情報化人材育成事業(eビジネス実践～サイト再構築編)を受講していただくとともに、担当者が個別アドバイスをを行った。

## 支援成果・現状

産業支援センターの助言を受けて、ホームページのリニューアルを行った。特にアンティーク家具は趣味性の強い商品であることから、店長のセンスを前面に打ち出したものとして好評を得ている。さらに、その後のアクセス向上や売上拡大策の実施に際しては、改善内容とアクセス数など定量的な成果を逐次記録し、実施施策ごとの効果を計数的に把握するよう、指導を行った。

こうした取り組みにより、産業支援センターの支援を受ける前に比べて売上高は約6倍となった。県外からの来店客も増えるなど、順調に成果をあげている。



<http://handle-marche.com/>

## 担当者の方からの一言



輸入アンティーク家具販売ショップ「ハンドル」

店長 水野 友希子 さん

もともとネット販売をしていましたが、もう少し売り上げを伸ばしたいと思ってeビジネス実践講座を受講させていただきました。具体的にホームページの改善点を指導していただき、売り上げ

アップを達成することができました。これからは商品単品の販売だけではなくコーディネートに関する受注も受けられるようにサイトを進化させていきたいと考えています。

# 次世代技術の育成支援

未来の県内産業を支える企業のモノづくりのための技術開発を支援します。

## 都市エリア産学官連携促進事業

ナノめっき技術を応用した省エネルギー効率の高い材料の開発を行うとともに、その事業化をめざし、科学技術コーディネータによるマッチング活動やテーマ別研究会等を開催しました。(当事業は平成20年度で終了しています。)

**研究テーマ** ナノめっき技術が創出する安全・安心エネルギーデバイス

**研究期間** 平成18年度～平成20年度(3年間)

## 地域資源活用型研究開発事業

地域に根ざした「伝統」や「文化」等に依拠した、地域固有の技術固有の技術又は技法等の地域の強みとなりうる地域資源を活用し、他地域の製品との差別化が図られ、地域産業の形成・強化の有効な手段として期待されるような製品の事業化に結びつく技術を開発しました。(当事業は平成20年度で終了しています。)

**研究テーマ** 越前がにを用いた高品質N-アセチルグルコサミン精製技術の開発

**研究期間** 平成19年度～平成20年度(2年間)

※ このほか、様々なプロジェクトの活動を支援しています。

詳しくは <http://www.vcnet.fukui.fukui.jp/fstr/>

お問い合わせ 技術開発部 TEL: 0776-55-1555

## 都市エリア産学官連携促進事業事例

### 事例15 倉茂電工株式会社

銅めっきアラミド繊維を用いた軽量・高抗張力ケーブルの開発

### 事例16 株式会社田中化学研究所

高容量・高信頼性リチウム電池用材料開発

## 地域資源活用型研究開発事業事例

### 事例17 株式会社エル・ローズ

越前がにを用いた高品質N-アセチルグルコサミン精製技術の開発

## 倉茂電工株式会社

代表者名：田中 利則

所在地：越前市

業 種：電線・ケーブル製造業

事業内容：FAケーブル・ロボットケーブル・通信ケーブル・巻線等の製造販売電機部品、電子部品、光通信システム的设计製造販売

# 銅めっきアラミド繊維を用いた軽量・高抗張力ケーブルの開発

### 経営課題（事業を活用した経緯等）

福井の地域産業として確かな技術力を蓄えている繊維やめっきに関する最先端の技術を結合させて、従来の性能を超えたこれまでにない機能を有する電線を製品化し、用途開発を進めて電線事業分野の拡大を目指している。

### 支援内容

産業支援センターが中核機関となり、当該企業とセーレン(株)、福井大学、工業技術センターによる研究共同体を構築し、平成18～20年度にかけ文部科学省『都市エリア産学官連携促進事業（発展型）』において、ナノめっき技術を基盤技術として、高張力・軽量電線材に関する産学官共同研究を推進した。



### 支援成果・現状

福井大学が有する超臨界二酸化炭素を用いた繊維の前処理技術と、セーレン(株)が有する繊維へのめっき技術および当社のケーブル化技術の連携により研究開発が進められた。

その結果、アラミド繊維に対して密着性に優れた銅めっきが可能となった。このアラミド繊維を用いて耐屈曲仕様の4心ケーブルを試作し、ロボットアーム部材などで要求されている高抗張力で軽量、かつ柔軟性に優れた導電ケーブルとして製品化ができた。

### 企業の方からの一言

我が社は、工場内で使われるFAケーブルを中心とする電線・ケーブルメーカーとして福井の地で着実な成長を遂げてきました。

今回の産学官共同研究により、地場の得意とする繊維やめっきにおける

最先端技術に基づく画期的な新製品を生み出すことができました。

今後この研究成果により、事業分野が拡大していくことを期待しております。

## 株式会社 田中化学研究所

代表者名：田中 保

所在地：福井市

業 種：化学製品製造業

事業内容：電池用各種薬品・金属表面処理薬品・触媒用各種薬品・各種無機薬品の製造販売

高容量・高信頼性  
リチウム電池用材料開発

## 経営課題（事業を活用した経緯等）

当社は、成長性の著しい二次電池事業、特にリチウムイオン電池正極材料に対して重点的に経営資源配分を行っている。

当社製品が使用されるリチウムイオン電池は高容量かつ安全・安心に使用できることが求められているが、近年電池市場においてはさらなる信頼性改良に向けた取組要望が強く求められている。

そこで当社は、これまでに開発した正極材料に対してさらなる高容量・高信頼性に結びつく特性改良を目指し、電気化学的材料評価と固体解析技術を併用した材料開発を行っている。これら複合的な開発様式に加え、社外研究機関（大学、公的機関など）とのコラボレーションを行いながら新製品開発に努め、顧客に対し次期商品に繋がる提案活動を行うべく本事業を活用した。

## 支援内容

産業支援センターが中核機関となり、福井大学を中心とした研究共同体を構築し、平成 18～20 年度にかけ文部科学省『都市エリア産学官連携促進事業（発展型）』において、ナノめっき技術を基盤技術として、高容量・高信頼性の二次電池材料に関する産学官共同研究を推進した。

## 支援成果・現状

リチウムイオン電池に対して、高容量・高信頼性に貢献できるポテンシャルを持った表面修飾技術を開発した。今後、事業化を目指した量産技術の開発に取り組む予定である

## 代表者の方からの一言



代表取締役 田中 保 氏

本プロジェクトの成果として、リチウムイオン電池用正極材料においてさらなる信頼性向上を可能とするナノプロセスによる表面修飾技術を確立することができました。今後、開発した表

面修飾技術を施した正極材料の実用化に向け、継続した国のプロジェクト参画を目指しています。

## 株式会社 エル・ローズ

代表者名：前川 長慶

所在地：坂井市

業種：繊維製品製造業、他

事業内容：衣料品、美容品、健康食品の企画、製造、販売、スポーツフィットネスクラブ及びカルチャースクールの企画・運営

# 越前がにを用いた高品質 N-アセチルグルコサミン 精製技術の開発

### 経営課題（事業を活用した経緯等）

当社は、企業理念に「美と健康」をテーマに掲げ、地域、社会への貢献に努めている。この理念を支えているのが、当社の地盤である「福井県の地域資源」であり、企業競争力を高めるための技術開発力の強化が求められている。

このような中で、今回の取り組みは、福井県立大学が取り組む福井県の地域資源「越前がに」の殻を活用した健康素材のN-アセチルグルコサミンに関する研究が、当社の取り組む方向性と一致していることから、共同研究がスタートした。

しかしながら、研究を事業化するには、いくつかの大きな課題をクリアする必要があるため、これを解消する方法として、産学官連携による今回の事業を活用した。



### 支援内容

産業支援センターが中核機関となり、当社、福井県立大学を中心とした研究共同体を構築し、平成19～20年度にかけ経済産業省『地域資源活用型研究開発事業』において、高品質なN-アセチルグルコサミンを精製する技術について産学官共同研究を推進した。

### 支援成果・現状

安全な土壌細菌を利用して、越前がにをはじめとする甲殻類からとれるキチンから高純度・低コスト・環境を配慮したN-アセチルグルコサミンの製造方法を開発した。

### 代表者の方からの一言



取締役 長谷川 清幸 氏

今回の支援により、当社の技術力を高めることができました。

今後、福井県立大学の木元先生の価値ある研究シーズを早期に商品化に結び付け、福井県の新しいブランドを創出し、

ヒット商品を生み出していきたいと考えています。

## デザイン指導相談事業

繊維、伝統工芸、食品加工分野等の企業が抱えるデザインに関する課題に対して、職員が相談および指導を実施します。

平成20年度 実績

指導相談件数 594 件

## 産業デザインプロデュース事業

業界組合や企業グループを対象に、デザインの専門家が市場動向や商品企画に関する助言、デザイン評価等を行います。

平成20年度 実績

県内外のデザイナーによるグループ等指導 20 グループ 36 回

## デザインマート事業

販路開拓、商品リニューアルを検討している企業を対象に、大都市圏で活躍する商品開発プロデューサーやバイヤーを招いて、商品求評会を開催します。

企業の負担金

参加費用が必要となります。

平成20年度 実績

参加企業 18 社

お問い合わせ デザイン振興部 TEL : 0776-55-1756

## デザイン指導相談事業事例

### 事例18 有限会社ユタカ建商

越前指物動物組木パズルのデザイン開発支援

## 産業デザインプロデュース事業事例

### 事例19 大日メタックス株式会社

商品コンセプト等の企画から知財権登録支援まで商品開発に関する幅広い支援

## デザインマート事業事例

### 事例12 越前漆器株式会社

越前漆器の伝統技術を活用した箸の商品開発と販路開拓

## 有限会社 ユタカ建商

代表者名：豊崎 均

所在地：越前市

業種：家具・建具製造・販売業

事業内容：越前指物製造販売、照明器具等  
インテリア雑貨商品製造販売

# 越前指物動物組木パズルの デザイン開発支援

## 経営課題（事業を活用した経緯等）

越前指物技術による建具類の受注が激減しているため、伝承技術を活かしつつ、現在の暮らしに適応する商品開発に取り組んでいる。

## 支援内容

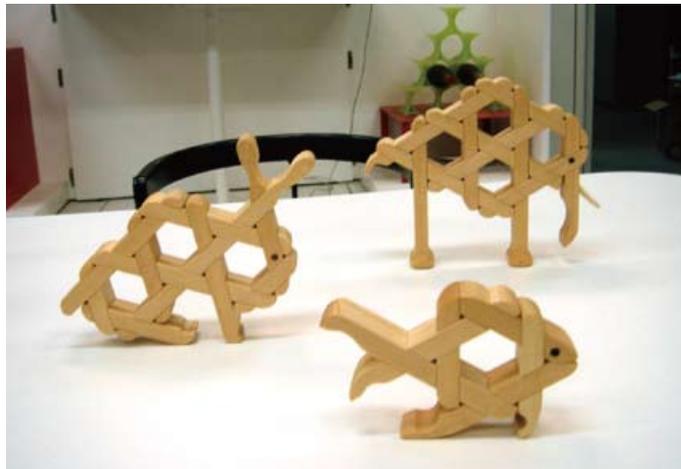
越前指物技術を活用した動物組木パズルのデザイン開発とパッケージデザイン開発に関するデザイン指導およびパンフレット等の製作に関する助言を行った。

また、試作や販路開拓には「ふくいの逸品創造ファンド事業」の活用を提案した。

## 支援成果・現状

動物組木パズルの開発にあたり、置物として動物が立ち上がった状態で、眺められるよう組木パーツに厚みを持たせたことや、組木パーツの先端部に曲線を取り入れることで動物らしい表現となった。

パッケージは、檻に見立て、中の動物パズルが見えるように提案。平成 20 年度末に首都圏のビジネスマッチングに出展した。



## 担当者の方からの一言



豊崎 正二 氏

経営課題打開の為に指物独自の技術を活用した玩具開発を企画しました。デザイン開発に関し、デザイン振興部の指導を受け試作品が完成しました。展示販売会などで興味ある商品とし

て人気がありマスコミにも紹介されました。今後適応年齢層に販路を広げたいと思います。

## 大日メタックス株式会社

代表者名：加藤 邦夫

所在地：福井市

業種：金属加工業

事業内容：アルミ製品および同部品の設計  
製造販売、ビル用アルミサッシ  
及び同部品製造販売

# 商品コンセプト等の企画から 知財権登録支援まで商品 開発に関する幅広い支援

### 経営課題（事業を活用した経緯等）

当社は、これまでに築いたアルミ加工技術を活かしてメーカー型企业への第一歩を踏み出そうと、自社商品の開発に取り組んでいた。ただし、従来から受託加工主体の事業形態であったため、商品開発や事業計画づくりを進めるにあたり、専門的な視点からの助言を求めている。

### 支援成果・現状

新商品のコンセプトや顧客ターゲットが明確になり、今後のマーケティングの方向性が決まった。

また、ペットサークルの開発にあたり、競合商品への特許および意匠権侵害等が無いことが分かり、商標を申請し、試作品開発と量産体制の整備を進めている。

### 支援内容

産業支援センター職員が当社を訪問し、当社の強み・弱みや経営資源の洗い出し、経営環境や業界動向の把握などの経営分析を行った。その上でプロジェクトチームの立ち上げや商品コンセプトづくり等に必要と考え方の整理や関連する情報を提供した。

また、開発中のアルミ製ペットサークル（室内犬飼育器）の設計に関し、特許権・意匠権侵害の調査指導と、商標登録に関する支援を行った。

大日メタックス株式会社・アルクリエブランドロゴマーク 商標申請中



### 代表者の方からの一言



代表取締役社長 加藤 邦夫 氏

自社商品の開発は当社で初めての試みでしたが、多岐に渡るサポートと客観的な視点での提案や助言により、新商品開発の方向性を定めることができました。またデザイナーや知的財産分

野の専門家も紹介していただいたことで、自社ブランドとして確立した商品にできあがりそうです。



**新事業支援部  
地域産業支援部/総務部**

〒910-0296  
福井県坂井市丸岡町熊堂3-7-1-16  
(ソフトパークぶくい 福井県産業情報センタービル内)  
TEL.0776-67-7400 (代表)  
FAX.0776-67-7429  
E-mail info@fisc.jp  
URL http://www.fisc.jp/



**技術開発部(産業技術研究センター)  
デザイン振興部(デザインセンター)**

〒910-0102  
福井県福井市川合鷺塚町61字北稲田10  
(福井県工業技術センター内)  
【技術開発部】  
TEL.0776-55-1555  
FAX.0776-55-1554  
E-mail fstr@fisc.jp  
【デザイン振興部】  
TEL.0776-55-1756  
FAX.0776-55-1759  
E-mail dcf@fisc.jp



**人材育成部(中小企業産業大学校)**

〒918-8135  
福井県福井市下六条町16-15  
(福井県中小企業産業大学校内)  
TEL.0776-41-3775  
FAX.0776-41-3729  
E-mail manabi@fisc.jp



**バス**

**【福井方面からお越しの方】**

- 京福バス 大学病院線  
(JR福井駅前 市内バス乗り場11番)
- 京福バス 大学病院線・新田塚線  
(JR福井駅前 市内バス乗り場11番)
- 京福バス 大学病院線・中藤線  
(JR福井駅前 市内バス乗り場11番)

**【丸岡方面からお越しの方】**

- 京福バス 本丸岡・松岡線  
(本丸岡バス乗り場)

**【松岡方面からお越しの方】**

- 京福バス 本丸岡・松岡線  
(えちぜん鉄道松岡駅バス乗り場)

※いずれも「県立大学」下車 徒歩5分  
(所要時間約20～50分)

**乗用車**

- JR福井駅より約30分
- 北陸自動車道「福井北.I.C.」より約10分
- 北陸自動車道「丸岡.I.C.」より約20分

**電車**

- JR北陸本線・春江駅より徒歩約25分
- えちぜん鉄道 三国芦原線 鷺塚針原駅より  
徒歩15分

**バス**

- 京福バス 運転者教育センター線  
(JR福井駅前 市内バス乗り場10番)  
「つくし野田地」下車 徒歩3分

**乗用車**

- 北陸自動車道「福井北.I.C.」より約25分

**飛行機**

- 小松空港から連絡バスでJR福井駅まで約70分  
JR福井駅から路線バスをご利用下さい。

**バス**

- 京福バス 羽水高校線  
(JR福井駅前 市内バス乗り場9番)
- 京福バス 西大味線  
(JR福井駅前 市内バス乗り場9番)

※いずれも「県産業会館・厚生病院」下車 徒歩1分

**乗用車**

- JR福井駅より約15分
- 北陸自動車道「福井I.C.」より約20分